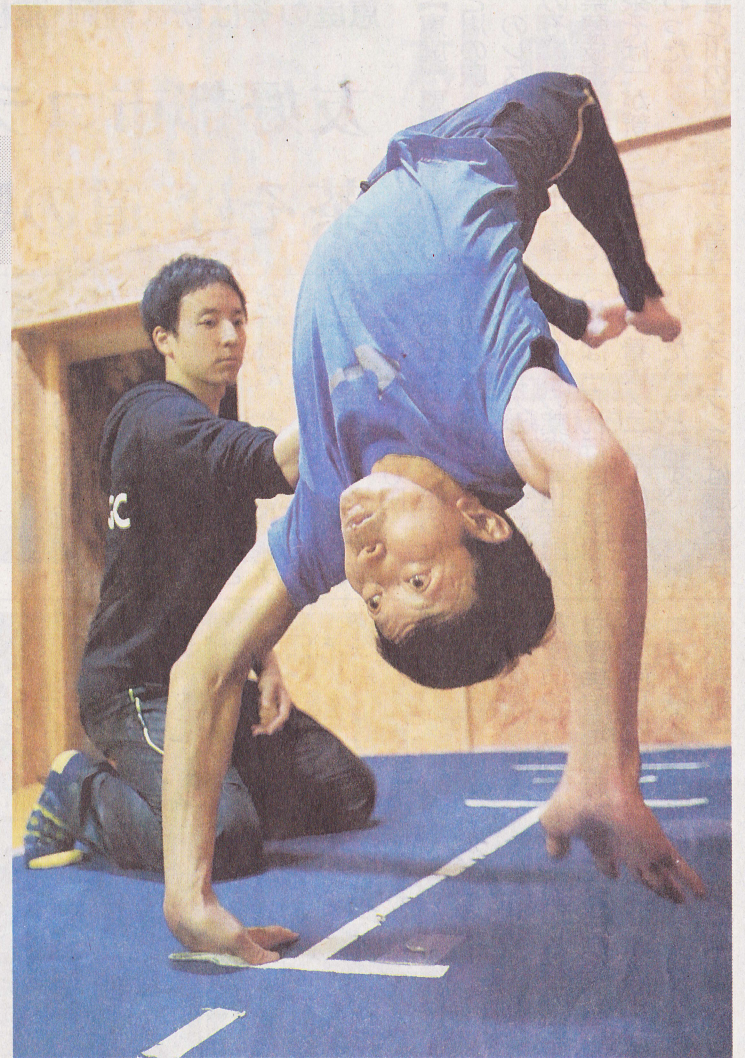


# 中高年 挑む バク転



大人になって「バク転」を習う人がいるという。後ろに反り返って1回転する、あの体操技だ。とりわけ熱いのが中高年層。一体なぜバク転に挑むのか。

(報道センター 高橋澄恵)

4月半ばの午後8時すぎ。苫小牧市の中学教諭、喜田篤さん(51)は覚悟を決めたような表情になると、両手を挙げ、えいっと後ろに跳んだ。腰元をコーチに支えられ、ぐるんと回ってバタンと着地する。

「ひっくり返るタイミングをもっと早く」。アドバイスに真剣な表情でうなずき、再び覚悟の表情。ぐるん、バタン。「今度は高さが足りない」。ぐるん、バタン。ストレッチや筋トレを含め、1時間半のメニューを黙々とこなした。

## 体動くうちに

喜田さんは小学校から大学まで野球に打ち込み、現在は体育を教える。1年ほど前から、札幌市北区にある「NPOさっぽろ体操クラブ」の練

習場に週1回通う。「体が動くうちにバク転を教わりた」と50歳の区切りに決心し

## 子供時代の憧れ

ザ・ドリフターズの仲本工事さん(75)がテレビ番組「8時だヨ!全員集合」で見たバク転を懐かしく思い出す人も多いのではない。東京都内で当時を振り返ってもらった。

◇  
コントですつこける時に、バク転してから倒ればインパクトがあるんじゃないか。稽古の時にそう提案したのが始まりです。芝居の流れを壊さないように「ついでにやっちゃった」と

週1回教室に通い、バク転を練習する喜田篤さん。コーチからのアドバイスを受け何度も挑戦する(中本翔撮影)

た。仕事を終えた後、車を走らせる。  
なぜバク転と向き合うのか。きっかけの一つは大学3年の長女が夢中になるジャニーズだ。喜田さんは、テレビの向こうでバク転をするアイドルを見て「俺もやればできる」との思いを強くした。「目指すはジャニーズシニアです」とはにかむ。

記憶をたどり、こうも語った。「そういえば子供のころ、バク転をする(ザ・ドリフターズの)仲本工事や(アクションスターの)千葉真一をテレビでよく見たなあ。すごいなあと思って見ていました」  
NPOさっぽろ体操クラブ代表で、元札幌体操連盟理事長の嶋倉豊さん(68)は「果たせなかった夢をかなえたいと

ドリフの仲本工事さん  
コーチの下で  
基礎しっかり

た。いつかのメン

懐かし

▶4  
フィティー



札幌市営地下鉄大通駅の2番出口から歩いて2分の「ニ

週1回教室に通い、バク転を練習する喜田篤さん。コーチからのアドバイスを受け何度も挑戦する(中本翔撮影)

た。仕事を終えた後、車を走らせる。

なぜバク転と向き合ったのか。きっかけの一つは大学3年の長女が夢中になるジャニーズだ。喜田さんは、テレビの向こうでバク転をするアイドルを見て「俺もやればできる」との思いを強くした。「目指すはジャニーズシニアです」とはにかむ。

記憶をたどり、こうも語った。「そういえば子供のころ、バク転をする(ザ・ドリフターズの)仲本工事や(アクションスターの)千葉真一をテレビでよく見たなあ。すごいなあと思って見ていました」

NPOさっぽろ体操クラブ代表で、元札幌体操連盟理事長の嶋倉豊さん(68)は「果たせなかった夢をかなえたいと



日本シリーズで本塁打を放ち、後方宙返りをしてホームインする秋山幸二さん  
=1991年10月

やってくる中高年は女性も含めて一定数いる。携帯電話で動画を撮れるようになり、一生の思い出にと残す人もいるのでは」と語る。

札幌の別の体育館でバク転を教える柳田和裕さん(28)も「ネット上で『バク転のやり方を教えます』とPRしたら200人が集まった」と驚く。

### 「バク宙」話題

アイドル評論家でコラムニストの中森明夫さん(57)「東京はこう語る。

「今の40代、50代が子供のころ、どの家庭も同じような

テレビ番組を見ていた。バク転をする歌手や俳優はヒーローで、子供たちは砂場でよくまねをした。ただ、そんな簡単にできるものじゃない。バク転ができるということはすごいステータスだった」

今の50代が子供だったころ、バク転をする特撮ヒーローが出始めたという。

覆面プロレスラーのタイガーマスクも、バク転などの空中技を繰り出すようになった。

かつてプロ野球西武ライオンズで活躍した秋山幸二さんは、本塁打を放ってホームインする際にバク転ならぬ

「バク宙」をして話題になった。地面に手をつかず、後ろに宙返りする大技だ。

中森さんは、中高年が子供時代に買うことができなかったおもちゃなどを「大人買い」する行為に重ねて、「昔できなかったバク転に挑戦するのは、アスレチックにおける『大人買い』意識の現れ」とみる。

ただ、バク転は重大なけがをする恐れもある技。嶋倉さんは「見よう見まねでやるのは非常に危険。指導者のもと、倒立やブリッジなどを根気強く練習した上で挑戦して」と注意を呼びかける。

札幌国際大スポーツ人間学部長の国田賢治教授(48)によると、フランスの社会学者カヨワは人間の「遊び」を①イヨワは人間の「遊び」を①スポーツなどの「競技」②宝くじなど運が絡む「偶然」③ものまねなどの「模倣」④プランコやジェットコースターで回転や落下する「めまい」に分類している。バク転は④に入り、国田教授は「コンピュータが発達した現代だからこそ、自分の体でめまいを試したい人が増えているのでは」と分析する。

# 時代の憧れ今「大人買い」

の仲本工事組「8時だせ」たバク転人も多いの「内」で当時を

## ドリフの仲本工事さん コーチの下で 基礎しっかり



「バク転、今でもできると思いますよ」と、笑顔で話す仲本工事さん

いう感じが一番受ける。ドリフのメンバーで何回も稽古しました。

中学、高校時代の器械体操部で基礎を学びました。当初は野球部でしたが、帰りが遅い。靴屋

をやっていた父が「店を手伝わなくなった」といはずので、野球部は辞めようと担任の先生に相談しました。すると先生は「じゃあ体操部をつくるから入れ」と。この出会いがなければ、ドリフでのバク転は生まれなかった。50歳を越えてバク転に挑むのはすばらしい。柔軟性やジャンプ力、腕力を鍛えるわけですから。ただ、決してコーチなしではやらず、前転などの基礎の動作もばかにしないでくださいよ。

## 懐かしい雰囲気味も抜群

札幌市営地下鉄大通駅の23番出口から歩いて2分の「ミナソノ」は、コーヒ

が良い味を出し、自家焙煎コーヒーの香りが鼻をつく。カウスターには本を読みふける

1を心ゆくまで堪能できる。おなかに余裕のある時は、プラス300円で自家製ケーキも試したい。定番の焼き菓子以外に、月替わりのシフォンケーキや週末限定品もある。